

じぶやき(眩き)

中村貞子

私は吉香公園がとても好きでよく訪れる。
 四季折々の美しさはもちろんだこと、歴史を感じさせる場所であり、心の癒やし場所でもある。
 「芽吹き初む古木の秘めし力かな」
 「芽吹く木のもとに車座弾む声」
 かつて玉田空千子先生に句の手解きを受けていたが、以来何となく駄句ではあるが、自分なりに呟いてみる。
 「初音聴く独歩碑文を読みながら」
 静寂の中で聴く鶯の初音、田中穂積氏作曲「天然の美」の琴の音を聴く安らぎ。私の属している句会では毎年、合同句会を催して今年も吉香公園周辺を三十八人がそれぞれ詠んでいる。
 「葉桜の陰をひろいて巫女歩めり」
 白に緋袴の巫女の歩み、まさに神苑である。
 秋「神苑を銀杏落葉の埋め尽くす」
 昨年、市の文化行事で来岩、講演された藤原正彦氏のお話の中で岩国に触れられた場面があり、錦帯橋の素晴らしさや立派さだけでなく、横山一帯の佇まいの良さを賞めてくださり、とてもうれしく思ったものである。

「有名な「名月や池をめぐりて夜もすがら」芭蕉句碑は古めかしい池のほとりにある。
 十年以上前のことであるが、市長選の小集会が地域で持たれた時、私は「錦帯橋だけに頼らないで、何か岩国の発展(企業的)につながることを開発をお願いします」と言ったことを覚えている。
 が、錦帯橋に匹敵するものはないようである。匠の素晴らしさと

言うか、いつどこから見ても絵になる。
 「名橋の天に放水出初め式」
 「宇野千代の愛せし五橋柳絮とぶ」
 「城山に錦帯橋に秋灯す」
 「秋日和子の歩に合わず錦帯橋」
 軍艦島や富岡製鉄工場のように、我が国近代工業の礎ではないかも知れないが、残して置きたい吉香公園と史跡であると思っ

デルタのまち川下

白木吉子

川下のまちに住んで早五十五年が過ぎました。戦後は駐留軍で賑わっていた街も、今は人口が減って静かになり、現在は約八千人の市民が暮らしています。

年間の行事も様々あり、年度初めには楠広場で花火大会が催され、多くの人で賑わいます。
 五月になると、川下のまちは一度の基地開放デーを迎えます。今年も米海兵隊岩国基地と海上自衛隊岩国基地の初の共催による「航空基地祭・日米親善デー」が開かれ、全国各地からたくさんのお客様が訪れました。さらに秋になると、川下地域が一つになって社会福祉協議会主催の敬老会が盛大に行われます。

また、最近川下が活気づいたことといえば、平成二十四年十二月

「岩国錦帯橋空港」が開港したことです。市中心部に近いという利便性から、県内はもとより、県外からの乗客も多く、岩国駅から錦帯橋空港まで「いわくにバス」が運行されています。無料駐車場や



今年五月五日に行われた基地開放デー
 「岩国錦帯橋空港」が開港したことです。市中心部に近いという利便性から、県内はもとより、県外からの乗客も多く、岩国駅から錦帯橋空港まで「いわくにバス」が運行されています。無料駐車場や

数年後には後期高齢者への仲間入りをする私ですが、明るい未来へつながる一助となればと、私なりに微力ながら活動している「キラバンメイト」と「傾聴ボランティア」を紹介させていただきます。
 高齢化の進む中、現在高齢者の七人に一人、十年後には五人に一人が認知症といわれています。キラバンメイトは、職場や近所から出来る範囲で、当事者やその家族への手助けをしていただくサポーターになってもらう「認知症サポーター養成講座」の講師役です。認知症という病気はいつ、誰が

他にはない自転車置場も整備され、川下からは東京出張に自転車で空港に行き、日帰りすることも可能になりました。九月には搭乗者が百万人を超えたそうです。また、街の中央には防災情報を

活用し、風水害に備えるために川下防災備蓄センターも設立されています。
 川下のまちも、あと二年もすると、空も地上もまた賑やかになりそうです。

今、私にできること

前田勝子

岩国の明るい未来を創るというキャッチフレーズと二宮会長さんの人柄に惹かれ、入会させていだいた弥生会。発足以来七年半過ぎ、季刊やよいも三十号とか。本当におめでとうございます。会として沢山の活動を企画されており、参加できないことも多々あり、申し訳ないことも多々あります。

なるかわかりません。広く沢山の人がサポーターになっていただきたいと思っ

傾聴ボランティア活動としては、施設に入所していらっしゃる高齢の方のお話相手です。いろんな生き方を聞かせてもらったり、学ばせていただくことも多くあります。もちろん、認知症の方もいらつしやう、時を寄り添わせていただきます。

これらは全て、この先私がお世話になるであろう方々への感謝の思いを、今、元氣なうちに少しでもお返ししたいという気持ちも込めてさせていただきます。
 季刊やよい二十七号で福田市長は、「難題にも果敢に向かい、既成概念に囚われない取り組みで未来をしっかりと切り開く」と述べておられます。

夢と希望の持てる明るい未来を創る弥生会の益々の発展をお祈りします。
 母を越え古稀を越えたる吾なれど母の優しさ越えられずいる